



ノーリフト®協会の
豊田好美さん

**利用者さん・患者さん
私たちみんなにやさしい
看護・介護技術学んだ**
2018 県医労連
看護介護セミナー

5月20日呉羽ハイツにて行われた看護介護ノーリフト実働セミナーに、病院6介護事業所10の16職場から、看護師16人介護職13人PT事務職等3人の計32人が参加しました。講師は日本ノーリフト®協会の豊田好美さん。午前中講演、午後実習を行いました。患者さん、利用者さん役になって行った実践セミナーは、自分達のでいたことを振り返ることになり、ノーリフト実働を体験したいという大きな動機になりました。以下感想文

施設介護福祉士何度かノーリフトの研修は受けていますが、身体の使い方を学ぶことが出来ませんでした。頭では分かっているにも関わらず、日々のなかでの介護がいかにも自分の体に負荷をかけているのか振り返る事ができませんでした。自分の身体だけでなく利用者のADLの低下にもつながることを学び、少しづつでも利用者の機能維持の為に、今日学んだことをとり入れていきたいと思えます。

グループホーム介護職員ノーリフトにはとても興味がありました。実際介護する側もされる側も負担があったこと、私たちが利用者さまの拘縮をつくっていたこと、本日の研修で学ばせて頂いて本当に勉強になりました。

施設介護職員シートはあるけど使いこなせていなかったことに気づきました。骨盤を動かすことを意識していませんでした。日常の介助の中で利用者・入居者の身体の自然な動きと気持ち(恐怖心等)を考えて今日学んだことを実践していきたいと思えます。

デイ介護福祉士介護を受ける側の気持ちや痛みなど知ることが出来、受ける側の力や身体の動きを使いながら介助することが、お互いの為になることを考えさせられた。これからも考えながら介護をしていきたい。

介護タクシー重心移動で、少しの力でスライドシートで移乗できることがわかった。自分自身は不良姿勢で常に仕事をしてきたことがわかった。利用者体験することで介護される人の気持ちや動作がよく分かった。

ヘルパースライディングシートはできるだけ使用することを職場で意思統一し、利用者さんにも用意してもらったが充分活用できていない事がよく分かった。職場で伝達し、活用方法をみんな確認していきたい。とてもわかりやすく楽しく学べた。

病院看護師実際に体を動かして身をもって体験できてよかった。他者の動きを見て客観的判断の材料になった。患者の苦痛も理解することが出来た。自分の行っていたノーリフトを再認識し、新しい知識も得る事ができた。自身の職場に広めていきたい。

富山県医労連では今後のどの施設でも取り入れる事ができる環境づくりの為に、県に予算措置を要望する等の取り組みを行っていく予定です。

